

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102063		
法人名	医療法人社団静隆会		
事業所名	グループホーム大平台の家(1号館)		
所在地	静岡県浜松市西区大平台3丁目36番10号		
自己評価作成日	平成29年9月14日	評価結果市町村受理日	平成30年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2277102063-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>天気が良い日は毎日外気を浴び、筋力低下防止の為 午前・午後に筋力体操を行っている。 又 誤炎しないように歌や毎食前口腔体操を行う。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>春は桜、秋になると緑の葉を真紅に染めるドウダンツツジが見える大きな窓はパノラマのように公園の全貌が見渡せます。地域のお年寄りのゲートボールや子どもたちが遊ぶ姿に和み、高校の部活の声に力を得て、四季の花木が季節の移り変りを教えてくれます。車の通りも少なく、広い公園が目前にあることで外気浴や散歩がしやすく、季節に馴染んだ暮らしができることが本事業所の強みです。早口言葉や寿限無、歌などの口腔体操、戸外(駐車場)での筋力体操を30分以上おこなうのが日課で、その他のことは特設プログラムしていないことが自由で家庭らしくてよい点でもあり、「楽しみがあるか」という面では課題点でもあります。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に提示しており、職員は常に実践にもとずき努力している。	現在の管理者が着任した6年前に皆で考えた理念の為浸透していますが、それでも事業所玄関に掲示したり、「○○な気持ちで仕事をしよう」といったプラスの標語をロッカールームや出勤簿、トイレに貼って、意識を高め合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事等は極力参加するようにしている。	自治会に加入し、地域の祭り、運動会、防災訓練に参加しています。祭りでは「ゆるキャラ家康君」の控室として事業所を提供しており、写真撮影のサプライズもありました。また訓練は少し遠い小学校から目の前の公園に場所が代ったことで、利用者も参加できるようになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会長・民生委員の方々が大変理解があり協力的である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居状況及び施設での日常状況等を報告し、話しあっている。	偶数月第4週火曜と定め定期開催が叶っています。事故や行事等の案内や報告の中、自治会長が地域行事のアナウンスとともに中心となって話を進めてくださり、助けられています。またイベントや利用者の暮らしの様子を発行する「ひなたぼっこ」の内容を提供解説することもあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設内で入居者の転倒事故などがあった場合は、報告書を提出している。	市役所、高齢者相談センター(地域包括支援センター)には運営推進会議の案内を出すも欠席ということが間々あります。市役所からはメールで随時情報が届き、事業所でも月1回以上は窓口に向かっています。	運営推進会議の出欠について行政分だけでも欠席の場合は理由を書面でもらっておくと、なおよいと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束ゼロの研修を行い、それに取り組んでいる。	安全の為に法人からは施錠への促しがありますが、離設の心配もないため、手薄になるとき以外は玄関をオープンにしています。現在は介護度1~3の人が大半で自立度合いが高く、拘束が必要な症状の利用者もいませんが、リスク回避のため夜間はセンサーを使用しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について研修を行い、それについて話し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在 青年後見人を利用している方はいないが、必要性があれば活用できるように学ぶ機会をもつ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時説明している、また改定がある場合その都度説明して契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議・ケアプラン作成時に家族に要望など聞いている。	介護計画書変更時や、普段の面会でも家族意見はなかなか出てこず、「今まで通りで～」に留まっています。ただし、利用者につく担当制は敷いておらず、皆一様に現状把握していることから、家族への返答や報告に困るということは起きていません。	面会は全般的に活発ではないようですので、年1、2回の家族会があると、なおよいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第3火曜日に定例会を行い、職員の意見等を聞く機会を設けている。	定例会議、朝礼、昼食時間を併用したカンファレンスと、比較的意見交換の機会が多くありますが、最近では職員から積極的な意見はみられません。そのため、特に何もないときでも雑談から拡がる昼食兼カンファレンスは有意義な時間となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	政本グループ本部に、何でも質問できるような電話線を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を行い、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	希望があれば、グループ内の施設へ手伝いに行くことができる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時 ご家族より本人のことを聞き取り調査し、サービスに導入している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時 ご家族の気持ちや要望などを聞き、サービスに導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が必要としていることをケアプランに取り入れ支援し、1か月で見直している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は家庭に居るような気持で、職員が家族の一員に思っただけのような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも来設できるよう配慮しています。また自由に外出・外泊もしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の親戚の方や友達など自由に面会いただいています。ご家族との外出も自由に行っています。	習字、塗り絵などこれまでやってきたことができなくなっている人が増えていますが、来客数はさほど変わらず、中には入れ代わり立ち代わり兄弟が訪れている人もいます。また珈琲や野菜ジュース、新聞閲覧など好みのことを続けることができている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日全員で外気浴・レクリエーション・下肢筋力体操など屋外で行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談を受ければ、いつでも応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や趣味、興味のあるものを把握し生活に生かしている。	怒りっぽい人でも気遣いを続けていくうちに穏やかになっていく、そんなことが職員の意向把握の力となっています。リビングで職員と過ごしているとき、ふっと言葉がこぼれることもあり、出来ることはすぐおこなうようにして、目的のある外出や買い物が出ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より入居前の生活歴等やサービスを利用していただいていたケアマネより情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報を共有で個々の心情、気持ちなどを把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の介護記録や職員の意見、ご家族より意向を聞き、サービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。	13時半から14時の30分程度毎日食事をしながらのカンファレンスは、今日あった出来事がリアルタイムで合議できるため、発語が活発です。また「介護計画書に基づきどうだったのか」を職員が残していく「介護記録」も介護計画に大いに役立っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録・経過記録を記入、ケアプランの実践など記入して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3か月のモニタリングでニーズに対してサービスができていないか見直しをしている。できていなければ検討して変える事もある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事は極力参加するようにしている、またボランティアの受け入れ、施設内で毎月行事を行い楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を聞き、施設の協力医の希望があれば職員が定期的に同行している。	家族も高齢となり通院介助が年々難しくなり、現在は全員が協力医に変更していますが、皮膚科、歯科医といった専門医は家族が引き続き付き添っています。週2回健康チェックに訪れる看護師には職員も相談でき、学びが増えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週2回来設している、また異常がある場合はその都度連絡を入れ、状態を報告して指示してもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、本人の情報提供し状態の経過を見せていただきに面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族に施設での状況を説明して、本人にとって良い方法を話し合う。	此処2年で1名が入院を経て亡くなり、4名が重度化に伴う移設となっていて、看取りはありませんでした。立位が摂れず、口径摂取が難しくなったとき看取りと考え、そのときは家族に相談して今後のことを決めてもらえるよう支援しています。現在1名が、まじかという状況にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行っている、また事故発生対策マニュアルで勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年3回行い、その内1回は夜間想定で行う、地域の防災訓練にも参加している。	防災訓練は昼、夜間、風水害の3つの想定でこない、2階から利用者運ぶ方法について「毛布でくるんでからどうする」「他の方法は」等の検討にも取り組んでいます。また訓練中、近所の高校生が駆けつけてくれたというエピソードからは本番さながらだったことが観えます。	目の前の公園が避難場所となったことを地域連携に活かしていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の性格が違うため、個々に合った対応を心かけている、	居室の扉を開けておきたい人、閉めておきたい人、高齢で認知症の症状もあれば常識でひとくくりにはできるものではなく、個々にどうしたいか、どうしていただきたいかを確かめつつ、ケアサービスをおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、本人の思い希望をくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のスケジュールの中、本人の希望を優先に参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月第4金曜日に理・美容師来設、希望者は散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行っているため、好みの物は把握しているので毎月の行事で手作りの食事・おやつを一緒に行っている。食器の片付けなど簡単な作業は手伝ってくれる利用者がある。	月～金は惣菜が業者配達され、日曜日は職員がすべて手作りしています。柏餅、西瓜、ソーメン、おはぎなど、時節に沿ったおやつを心掛け、年1回開催すると決めている餃子パーティーは皆の楽しみの一つです。	毎日の総菜が外部から届くということもあり、時節行事だけでなく普段のおやつに「楽しみ」がより加わることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々により摂取量の違いがあるため、その人に合った量や盛り付けをして提供している。栄養価は計算された食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けしている。又 誘導・介助で入れ歯の洗浄をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、尿意・便意のない方もトイレ誘導介助している。	布パン使用での失禁が止まなかったため、家族に相談してリハビリに替え臭いもなくなった例もあり、「向上ありき」ではなく状態に合わせていくことが大切としています。排泄状態の向上はほとんどなく、入院するたびに悪化しており、そこからの回復がなかなか望めない状況にあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心かけ毎食時汁物を提供している。午前・午後、運動をして体を動かすよう心かけている。また便秘の方は下剤を服薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務体制により時間が決められている。入浴を楽しんでいただけるようお茶風呂や館山寺温泉の源泉を定期的に届き、楽しみにしている。	入浴は1日おきとし、清潔保持に努めています。月に1度、館山寺の温泉がポリタンクで届く日もありますが普段は茶殻湯を愉しみ、シャワー浴の2名以外は湯に浸かる喜びが続いています。また女性の中には仲良し同士で入って話に花が咲く人たちもいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干し・シーツ類の洗濯を定期的に行い清潔を保ち気持ちよく安眠できるようにしている。又職員は居室の温度にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬管理表をつけ、名称・効能を記入している。毎食時手渡しや介助にて服薬、飲み込み確認している。変化があれば協力医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分の出来る事は出来るだけ行ってもらう、毎月の行事やボランティアの受け入れを行い楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族と外出や外食などに行かれる方もいる。地域の行事には参加できる方は参加している。	天気のよい日の散歩のほか、年4回程度の外出企画があります。初詣に始まり、花見や地域の運動会で風船割りに盛り上がったり、最近では浜松祭り会館に出かけました。法人の施設の、館山寺にあるホテルで外食する日もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常に財布を所持していないと落ち着かない方は家族と話し合い、影響のない金額を持っている。ご自分で管理できない方は施設で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を入れたいと希望がある場合入れている。また 贈り物が届いた時はお礼の電話を入れる補助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には共同で作成した貼り絵や行事の思い出写真などを提示してある。またリビングの西側の窓は大きく公園の景色が一望できる。	西側に開かれた大きな窓には障子、簾もかけられ、夏の暑さ対策があったことが視え、また壁には職員との共同作品が存在感を放っています。パノラマのように目の前の公園が見渡せ、地域のお年寄りのゲートボールや子どもらの姿に和み、高校の部活の声に力を得ています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビや新聞を見て過ごしている。ご自分の居室でテレビを見る方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族には新しい物は慣れるまで本人が戸惑うため、なるべく使い慣れた物を用意していただくように説明している。	テレビ、カセットデッキ、藤の椅子、リクライニングチェアが置かれた部屋はあるものの、総体ではシンプルで持ち込みは少なく、また入居時にはあった物も症状の進行から家族に引き払ってもらったこともある、とのことでした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっている又各場所には手すりがあり、安全に歩行ができるようにしている。居室がわかるように目印に写真をはり、トイレのドアには目の高さに大きく「トイレ」と書いてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102063		
法人名	医療法人社団静隆会		
事業所名	グループホーム大平台の家(2号館)		
所在地	静岡県浜松市西区大平台3丁目36番10号		
自己評価作成日	平成29年9月14日	評価結果市町村受理日	平成30年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102063-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>天気が良い日は毎日外気を浴び、筋力低下防止の為 午前・午後筋力体操を行っている。 又 誤炎しないように歌や毎食前口腔体操を行う。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>春は桜、秋になると緑の葉を真紅に染めるドウダンツツジが見える2階の大きな窓からはパノラマのように公園の全貌が見渡せます。地域のお年寄りのゲートボールや子どもたちが遊ぶ姿に和み、高校の部活の声に力を得て、四季の花木は季節の移り変りを教えてくれます。車の通りも少なく、広い公園が目前にあることで外気浴や散歩がしやすく、季節に馴染んだ暮らしができることが本事業所の特長です。早口言葉や寿限無、歌の口腔体操、戸外(駐車場)での筋力体操を30分以上おこなうのが日課で、その他のことは特設プログラムしていないことが自由で家庭らしくよい点でもあり、「楽しみが豊富か」という面では課題点でもあります。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見えるところに掲示し、理念に基づいた管理者の指示に従い実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体の夏祭りや運動会等に招待して頂き、参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時などに認知症に付いての説明を必要に応じしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容について、カンファレンスの時間に皆に伝えるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ、管理者などが市役所に相談に行く事がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エスケープのリスクを考慮に入れながらも、できる限り玄関は開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修で話題に出され、学び、また普段のカンファレンスにおいても時々話題に出されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に資格取得の時、各自学んでいる。また資格取得を奨励している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者より説明し、その後も同様の説明を必要に応じ行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時やケアプラン作成の時などにお話を伺い、また定期的なアンケートを行うなどしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々カンファレンスの時間を設け、話し合いをして、必要に応じ管理者に相談している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各マニュアルの改善を行うなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修を行い、資格取得を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との職員交換やお手伝いをする事により情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り聞き取りを行い、ケアプラン作成後も新たな情報はないか確認し、本人の観察をして安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り聞き取りを行い、ケアプラン作成後の説明も一つひとつ確認しながらお話しするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの説明と本人の実際を見て、他の施設サービスも視野に入れるように説明することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で一緒に出来る事をしている。また、会話を一緒に楽しめるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を見ながら、ご家族に協力していただきたいことがあれば伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や本人が拒否されない限り、受入れるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ、気が合い話しの弾む人同士が近くの席になるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者などが、その後の経過情報が入り、必要があれば相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケガ等の危険が無い限り、本人が生活しやすいようになるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、また、前利用サービス事業所等に情報を求め、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、状態観察を行い、体調の変化に気づいた場合には対応するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行うに当たり、すべての職員や関係者に意見うを求め、話し合うように心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ケアプランの実践・結果等を記入し、支援内容を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アイデアを管理者に相談し、可能であれば行うようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の運動会や夏祭りに参加したり、地域のボランティアに来てもらうなどして楽しみを持って過ごしてもらえるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	先に説明し、納得して頂いたかかりつけ医に定期的に受診している。それ以外についてもその都度相談して受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2階の訪問看護師にそれぞれの状態を伝え、相談し、助言により受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した入居者を管理者が面会して、状態を確認したり、病院やご家族に情報提供してもらったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態によって、医療設備の整った施設を紹介するなど、ここで出来る事や出来ないことを常に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ここで資格取得による勉強をしたり、カンファレンスの時間を話題に出ししなければならないことについて話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で定期的な防災訓練を行っている。地域の防災についての情報提供してもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内で過ごしたい人に対して危険が無い限り、自由にしてもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設のスケジュールに沿わないことであっても出来る限り、希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の入居者との兼ね合いに気をつけながら、可能な限り、希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	たとえ季節感の無いものであっても、問題が無ければ本人の希望に従い、職員の意見を強制しないように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや片付けなど出来る事をしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり状態を観察し、本人の好みも考慮に入れ、カンファレンスで話し合い、必要であれば医師や看護師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり口腔ケアに誘導・声掛けし、職員が確認している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入院した入居者を管理者が面会して、状態を確認したり、病院やご家族に情報提供してもらったりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日運動を促し、人によっては乳酸菌飲料を利用するなど工夫している。その上で医師・看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった時間帯はあるが特に汚れてしまった場合には時間を問わず入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えがあった時や体調が悪いことが確認できた場合は、居室で休んでもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師に相談しながら、処方してもらった薬の内容について確認し、把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る事好きな事を考慮に入れケアプランに取り入れ、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に相談し、可能であれば、連れて行ってもらっているようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望される場合は所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手側の許可がある場合において電話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示、行ったばかりの行事の写真を掲示している。気温調節のため随時エアコン使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席については気の合う人が近くなるように配慮しているが、ソファーに移動するなどして自由に居られるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	主に本人やご家族にお任せして、本人の嗜好に合ったものになるようにしてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや各居室には、名前などを表記して、見れば分かるようにしている。また廊下には危険な物を置かないように注意している。		